

会議名	第9回新城地域協議会		公開
日時	令和6年2月29日(木) 午後7時00分～午後8時30分	場所	市役所4階 会議室
出席者	(委員) 権田康之、西尾泰昭、矢賀美紀代、清水利高、今泉澄夫、佐本達俊、 高木猛至、丸山哲也、中川享子、今泉克英、松井利文、 後藤國與、鈴木雅晴、白柳明美、今泉光俊、浅岡勝、大瀧章義、 村田博和、沼田宣、今泉栄、畠山恵美子		
	(事務局) 市民自治推進課：杉本参事、宮本主査 新城自治振興事務所：今泉所長、近藤主任		
欠席者	鈴木敏章、伊藤哲夫	傍聴者	1名
配布資料	次第 資料1：令和6年度への引継ぎ事項について チラシ：めざせ明日のまちづくり事業補助金 及び地域活動交付金成果報告会		

議題・議事・発言等（要点記録）

<p>1 開会 会議成立の報告及び会議録署名委員の指名（今泉克英委員、松井利文委員）</p> <p>2 報告 (1) 地域計画推進体制検討会の進捗について 市民自治推進課（杉本参事）より新城地域自治区地域計画推進体制検討会の進捗状況について報告を受けた。 令和4年度末に新城地域協議会から推薦をいただいた構成員で、地域計画をより推進させていくための仕組みについて検討を進めていること。これまでに12回の検討を行っており、粗方、提案の内容が固まってきていること。次年度には提案内容について報告ができるだろうことの報告であった。</p> <p>3 議事 (1) 令和6年度への引継ぎ事項について 各分科会にて検討した内容について、分科会の委員長より報告をいただいた。 その後、質疑応答を行い、引継ぎ事項について採決を行った。採決の結果、満場一致により、資料1のとおり令和6年度への引継ぎ事項となった。 以下、質疑応答における主な意見を記載する。</p> <p><1-(3) 地域活動交付金の募集方法について> ○地域協議会で考えたテーマで募集をかけるということか。 ⇒その通りです。近年、地域活動交付金の執行残額が見受けられるため、活動交付金の申請を待つだけでなく、こちらから募集を働きかけてはどうかという提案です。 ○募集のかけ方や予算枠等はどのように考えているのか。 ⇒次年度の新城協議会にて、詳細を詰めていただきたいという提案です。 ○地域計画分科会からの提案で地域活動交付金の内容等もあるので、分科会の垣根を越えて、一緒に検討を進めてはどうか。 ⇒次年度も3つの分科会で進めて行くのかといった組織の見直しも含めて検討したいと思</p>
--

う。

< 3- (1) 地域計画について >

○これまでの地域計画では、進捗管理が出来ていなかったのか。

⇒これまでも進捗管理はしていたものの、実施したかどうかといった把握程度で、具体的な数値等で評価するという事は出来ていなかった。今年度、そういった部分にも少しずつ手を付けだしたところになります。

4 その他

(1) 自治基本条例10周年記念イベントについて

事務局より、チラシを用いてイベントの告知がされた。

その後、各委員から1年を通しての意見や感想をいただき、地域協議会会長及び新城自治振興事務所長からの一言をもらい、閉会となった。

以下、委員からの主な提案を記載する。

< 主な提案 >

○地域活動交付金事業の審査における評価項目について、申請事業の内容や性質によって評価し難いものもあるため、一律の評価項目とせず、事業内容等に併せた評価方法等の検討をされたい。

○他の地域協議会や若者議会、議員などとの交流の場を設けてもらえると良い刺激になると思う。

⇒学生などからの意見も聞けると遊び心のあるワクワクできる事業提案に繋がるのではないか。

⇒1つの地域自治区だけでの課題解決は難しいと思うので、隣接地区などと協力して地域自治区予算事業の検討も必要と感じる。

○地域自治区制度が、まだまだ地域に浸透していないように思う。

⇒身近な人でも知らない人が多いので、そういった方にアプローチをしたいと思う。

⇒地域自治区制度の仕組みが複雑でわかりにくい。もっとシンプルになると良い。

○地域協議会で検討した内容等が実行されるまでにタイムラグが大きくもどかしく感じる。

○地域協議会自体が地域への呼び水として活動団体となれるような必要を感じるが、地域協議会は市の附属機関（諮問機関）となっていることが足かせになってしまっていると思う。

○地域計画の位置づけを明確なものとされたい。

○地域自治区予算について、しんしろ地域計画に沿った事業提案とするならば、地域計画分科会で検討するよう組織の見直しをした方が良いと思う。

○能登半島地震のこともあり、被災者からのお話が聞ける機会を設けてはどうか検討されたい。